

1月29日（探究学習発表大会挨拶）

「学ぶ」ということ

この週末、スポーツ界で二つの「初」がありました。大相撲ではモンゴル出身の玉鷲が34歳で初優勝、大阪なおみ選手は全豪オープンテニスで初優勝、初めて世界ランキング1位になりました。どんなに長い歴史や伝統があるものにも、必ず1回目があったはず。また、私たちにもいろいろな場面で人生初という経験をするがあります。

これから始まる探究学習発表大会は、口加高校初の取組です。前例がないことをやるのは大変なことです。どんな準備をしたらいいのか。どんな資料やポスターを作ったらいいのか。どんな発表をしたらいいのか。全てが初めてです。昨日、シートを敷いたり、パネルを運んだりしてくれたおかげで、会場の準備は整いました。準備をしてくれたみんな、ありがとう。今日を出発として、来年、再来年、5年後、10年後どんどんこの発表会は進化していくと思いますが、ここにいるみんながその歴史の創設者であり開拓者です。

今日の発表まで様々な「学び」がありました。課題を設定したり、テーマを決めたりするのも学びです。調べるのも学び、考えるのも学び、話し合う、まとめる、今日の発表のためにパワポの資料やポスターを作るのも学びです。今日の発表も学びであり、質問に答えるのも学びです。また聞く側にいる人たちにも多くの学びがあります。発表を聞きながら「へ〜」とか「なるほど」という、知らなかったことを知る学びもあるでしょう。でも、学びを深めるためにもっと大事なことがあります。それは「なぜ?」「どうして?」という疑問を持つことです。学びの出発点は「なぜ?」「どうして?」という疑問です。今、私はあえて「勉強」とは言いません。「学び」と言っています。もちろん水と油のように全く違うものではなく、シンクロする部分もありますが、「勉強」と「学び」は違うと思うからです。いろいろな定義があるでしょうが、極端な言い方かもしれませんが、「勉強」はまず教えがあって、答えがあることが大前提。効率のいいやり方を習って、答えの出し方を覚えることが勉強です。極端な話、考えるスイッチはオフにしても勉強はできます。授業中に先生が質問をしたり、問題演習をする時に「よく考えてみろ」、とおっしゃると思います。その場合の「考える」は「思い出す」の意味に近いと思います。「この前授業でやっただろう。よく思い出してみろ」という意味です。「考える」と「思い出す」は違います。

一方、「学び」は「なぜ?」という疑問が湧いて、本当のことを知りたいという知的好奇心からスタートします。そして、自分で探究していく中で、分からないことが分かっていく楽しみがあります。探究するとまた次の「なぜ?」という疑問にぶつかるんです。そしてまた探究する。まるで思索の森にいるようなものです。「学ぶ」時には、常に考えるスイッチはオンになっている状態です。皆さんが教室で受ける授業は「勉強」の方に近く、これまで取り組んできた探究学習は「学び」に近いのだと考えています。

最後に、今朝、私は小浜のバスターミナルからバスで10人ぐらいの生徒と一緒に

通勤しました。海沿いを走るバスです。日によって、時間によって、季節によっていろんな表情を見せるこの海を見ながら通学できるなんて、贅沢だなと思いました。毎日見慣れていると何の感情も湧かないかもしれません。また、一週間ぐらい前に学校に大阪からお客さんが来られました。近くで前の日に1泊されたとのことで、原城とかセナリヨなどキリシタン関連施設とか見て来ましたとおっしゃいました。その方が「ここは持ってるな、と思いました。」とおっしゃいました。他にはない、ここにしかない財産や誇れるものが沢山あるとおっしゃったのです。ここに生活をしていると当たり前になってしまいますが、外から来られる方々は、私たちのふるさとの良さに気づいて帰られます。

今日の発表会に2つのことを期待しています。一つは発表する人にも聞く側の人にも多くの「学び」があって欲しいということ。もう一つは、ふるさとの良さを再発見する機会になって欲しいということです。では、みんなで有意義な午後の時間にしましょう。